

2023年(令和5年)

第3回
定例会



ひらない 議会だより

第217号

2023年10月25日発行
青森県平内町議会

第7回 子ども議会 開催

東・小湊・山口小学校
平内中学校 選出の議員のみなさん



子ども議会 11人登壇 2~7

22年度決算 8~13

23年度補正予算 14~15

一般質問(5人登壇) 18~22

委員会の活動 23~25

サークル紹介 28

平内町議会議場に於いて 8月4日

次から次へと 頼もしいアイディア！



いした すい
石田 翠 議長 平内中2年

日程がスムーズに進むように、みなさんのご協力をお願いします。

2年ごとに開催の「子ども議会」が、8月4日に開催されました。議長に平内中学校2年の石田翠議員が選出され、小学生7人、中学生4人が学校を代表して、町へ一般質問を行いました。

開会挨拶では、町長から「みなさんの貴重な意見や要望には可能なことは直ぐに実行し、困難な要件

には、今後の町行政の取り組みの参考にしたい」との激励が寄せられました。

質問終了後には、船橋健人町議会議長から「礼儀正しく立派な態度であり、質問内容には我々議員も考えさせられました」との講評が寄せられました。傍聴席では学校関係者、町議がメモを取りながら、熱心に聴きっていました。



小学生



人口減少・少子化対策を

かたやま かなで
片山 佳奏 議員 小湊小6年

町の特徴を生かしたイベント開催を

片山 現在、平内町の人口が減少していると聞いています。平内町にしかない特徴をあまり活かしていないのではないかと思います。

私が平内町の人口を増やすために考えたことは、平内町にしかない特徴を活かした子どもも大人も楽しめるイベントを開くことです。そうすることによって、平内町の魅力を感じてもらい、人口が増えていくのではないかと思います。また、中学校3校が統合され、4月から平内中学校が開校されました。このまま少子化が進むと近い将来小学校も統合され、一部の地域に賑わいが偏って、学校がない地域はさみしくなるような気がします。

そこで、平内町では人口減少、少子化対策としてどのような取り組みをしているのか、お伺いします。



毎回 大盛況の「ほたての祭典」

町長/当町の魅力を発信していきます

町長 町では「第2期平内町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、様々な取り組みを進めているところです。

人口減少対策では、全世代を対象に町の人口を減らさない、少しでも増えるように移住・定住に関する事業に取り組んでいます。

少子化対策では、町独自の子育て支援の充実に取り組んでいるところです。

特徴を活かしたイベントでは、養殖ホタテ水揚げ日本一を誇るホタテを前面に押し出した「ほたての祭典」や、首都圏に赴いてのPRイベントなどを実施し、大変好評を頂いているところです。今後も平内町の魅力を最大限に発揮できるようなイベントを企画し、SNS やメディアなども活用し、当町の魅力を発信しながら元気に安心して暮らせるまちづくりを進めていきます。



災害時の給水状況は

さ さ き けい た ろ う
佐々木 慶太郎 議員 小湊小6年

災害時の給水状況は

佐々木 人々の安全を守るために、災害時の給水についてどのように行われているのか。さらに、給水車が町にあるのかについてお聞きしたいです。

町長/給水タンク4基保有しています

町長 給水車は保有していませんが、災害発生により、水道が断水した場合の対応では給水タンク1基あたり1,000ℓの給水タンク4基（18ℓのポリタンク、約220個分）を保有し、トラックの荷台に載せて、断水した地域・区域への給水活動を行うこととしています。それでも対応できない場合は、近隣の市町村や自衛隊へ応援を依頼することとなっています。



特産物料理で人気ある町へ

おきざき りん か
沖崎 鈴夏 議員 小湊小5年

ホタテフェスを

沖崎 平内町の特産物を使った料理として年に一回ほど、青森県民の方にホタテがメインの料理を考案してもらうのはどうでしょうか。

平内町には、ホタテ料理がいっぱい使われたレストラン「ひらないまるごとグルメ館」があります。青森県民の方が考案し「ホタテ料理」の試食会をしたり、レストランの新メニューにしたりするという「ホタテフェス」を開きたいです。

そのイベントをテレビで放送することによって、その新メニューを食べてみたいという人が平内町に足を運んでくれたり、平内町はホタテが有名だと知れわたったりすると同時に、毎年それを見て応募する人や新メニューを食べたいと思う人たちが増えて、平内町にたくさんの人が来ることを願っています。



18ℓポリタンクで約220個分 保有

若人の流出を防ぐ方策を

佐々木 昨年5年生の社会科で、地方の人口が減り都心の人口が増えていることを知りました。若い人が平内町で働けるように、空き地などを整備して商業施設や会社が建てられるようにする必要がありますと思います。

そこで、平内町では若い人の流出を防ぐために、どのような取り組みをしているのかを教えてください。

町長 子育て世代への支援策や、移住・定住に関する取り組みを進めているところです。

ご指摘の「空き地などを整備して商業施設や会社を」では、「平内町工場設置奨励条例」を改正し、様々な業種の企業を平内町に参入できるように優遇措置を広げています。企業を呼び寄せる取り組みとして、青森市と東津軽郡の町村や関係商工団体と連携し、東青地域一体となって進めています。



ご当地レストラン「ホタテ一番」

町長/新企画を練ります

夢があって楽しそうな提案

町長 2018年に地場産食材を活用した「日本一のホタテ料理専門レストラン」として新・ご当地レストラン「ホタテ一番」が完成し、昨年までに約12万食、金額にして約1億5000万円の売上を達成しています。「ホタテ一番」では毎年メニューを見直して、常に新しいホタテ料理を提供して話題をつくり、これまで、新聞や雑誌、芸能人が来店してテレビにも紹介されて好評を頂いています。

議員提案のレストランを使っの「ホタテフェス」を開きたいとのことですが、非常に夢があって楽しそうな提案だと思います。

夜越山森林公園を会場として、毎年9月中旬の「ほたての祭典」のイベントでは、ホタテに関するいろんな企画で1日いっぱい楽しめ、県内外から多くの人が訪れます。議員のホタテ料理の考案も含め、新企画を今後提案していきたいと思っています。



住みやすい町へ

「デマンド型乗り合いタクシー」導入を目指して

町長/公共交通の取り組みを進めます

かわむら ねねか 川村 寧々佳 議員 山口小6年

バス便の増を

川村 自家用車を所有していない方々にとって、住みやすい町とするためにバスや電車の利用本数を増やすことです。バスの台数や運転士の数などに限りがあり、町だけで解決できないことだと思いますが、平内町のどこに住んでいてもだれもが快適に公共交通機関が使えるようにしてほしいです。

町長 全国的に叫ばれているドライバー不足が当町にも当てはまる問題です。町では打開するため、21年に「平内町地域公共交通計画」を策定し、利用者が予約することで、複数人がタクシーに乗って目的地まで移動する「デマンド型乗り合いタクシー」の導入を目指し、現在、事業者等と実証実験に向けた協議を進めているところです。導入されるとドアツードアでの移動も可能となり、地域住民の移動が

より便利で楽なものになると考えています。

バス待合室の清掃及び建て直しを

川村 バス停留所の清掃活動や建て直しをすることです。町民が使用するので各地区と町で協力し、清掃活動を行うことが必要だと思います。それにより、自分たちで使う場所をきれいに使おうとの気持ちも湧いてくるのではないのでしょうか。

町長 設置地域の町内会や婦人会の方々により、清掃等の管理をお願いしていますが、マナー向上を促すポスターの掲示など啓発活動を実施していきます。停留所の建て直しでは、待合所の更新計画を策定のうえ、年に一度町で待合所を確認して回り、修理や建て替えを行っています。



人口増に向けての提案

町長/努力を惜しまず取り組みます

ささき みお 佐々木 澪 議員 山口小5年

佐々木 私たちのクラスでは人口増に向けて話合った結果、4点質問します。

公園を増やして

公園を増やすのはいいがが。子どもが遊べる環境が増えれば、観光にくる人も増え、平内町の魅力がより伝わると思います。

町長 子どもたちが「遊びに行きたい」「家族で行ってみたい」と思ってもらえるような施設作りはとても大事な要素ですので、今ある公園を人口増に結びつけられる施設にできるよう参考にします。

コンビニ、スーパーマーケットを増やして

佐々木 買い物をする場所が増えるようコンビニやスーパーマーケットを増やすのはどうか。高齢者の方なども買い物をするのが大変です。また、買い物ができる場所を増やすことで、そこで働く人々が増えます。

町長 賑わいができることは大変喜ばしいことですが、企業側の経営判断もありますので、町がお願いして出店を実現させることは容易ではないことを



青少年ホーム敷地内

ご理解くださるようお願いします。

電気代安くして

佐々木 電気代を安くすれば住みやすい町になり、人口の増加につながるのではないかと。

町長 町独自で電気代を安くすることはできませんが、プレミアム商品券や低所得世帯への給付金を実施し、家計負担の軽減も図っています。

ペットショップを

佐々木 ペットショップを増やすとよいのではないかと。ペットを飼っている人が平内町に住みたいと思うのではないかと考えました。町長の考えをお伺いします。

町長 町だけの一方的な思いだけでは実現できないことも事実ですが、メリットのある商業施設等の誘致が進められるよう、努力を惜しまず取り組んでいきます。



東平内中学校跡地に ショッピングモールを

葛西 璃玖 議員 東小6年

葛西 清水川地区活性化に向けて私たちは学級会で話し合い、次のような意見をまとめました。

旧東平内中学校の跡地を利用して、ショッピングモールを建てることによって、お年寄りの方などが買い物に困らなくなります。また、カフェなどで集まったり、コミュニケーションを取る場面があったりして、生き生きと過ごすことができると思います。その他にも、ショッピングモールだと、いろいろなお店が出店することができます。フードコートは、子どもにも魅力があるお店が入りやすいので、家族連れにも嬉しいと思います。

清水川地区の子どもの数も減少し、このままでは、私たちの東小学校も無くなってしまうかもしれません。ぜひ、旧東平内中学校の跡地をより良い活用をしてくれることを願っています。



人口減少に歯止めを

町長/提案を参考に
取り組みます

福村 悠斗 議員 東小5年

福村 僕たち5年生は「平内町の人口減少」に着目し、まとめた意見を提案します。

公有施設内に遊べる空間を

広い土地を利用して公園をつくることです。しかし、増設に伴い夜越山公園のように元からある公園に来る人の減少が考えられます。この問題を解消するために、ヒュッテなどの室内に遊べる施設をつくれば良いのではないのでしょうか。

町長 「公園イコール遊ぶ所」から「公園は健康作りにも繋がる所」と考えれば、ウォーキングやジョギングのコースを組み入れることも可能です。

今後の「まちづくり」に施設整備があった場合は、このような自由な発想を取り入れます。

大和山にキャンプ場を

福村 大和山の大自然にキャンプ場をつくるという事です。大和山には、大きな自然があり、広い土地もあります。そこを利用してキャンプ場をつくれれば良いと考えました。熊や猿などには柵を設置し、安全を確保することで、多くの人に利用してもらい



よりよい活用を 旧東平内中学校舎

町長/防災備品備蓄や防災拠点として利活用します

町長 旧東栄小学校備蓄の防災備品の配置予定や、体育館を防災拠点としています。何より解体撤去には多額の費用がかかるため、撤去予定がないのが現状です。また、旧東平内中学校周辺は道路幅も狭く、民家も多く立ち並び小学校も隣接し、商業施設を建設することで人や車の往来が激しくなることで生活環境の変化や通学児童の安全確保など、現状では、あまり適切ではないものと考えています。

町としては国道に隣接する小湊・浜子地区の旧操車場跡地があり、土地の形状やアクセス性など、商業施設等を運営する企業側の考えもあるため様々な可能性を考えて進めていきます。限られた財源の中で、町の発展や地域の活性化のために、町全体の土地の利用をどのように進めれば良いかを考え、まちづくりを進めていきたいと思っています。



夜越山ヒュッテ内に遊び場を

平内町の良さを知ってもらうきっかけになります。

町長 「大和山に」とのことですが、平内町は大自然に溢れています。いろんな場所を候補地に挙げてみて、動物との共生を図り、かつゴミ対策などもしっかりと想定されるような場所を選んで、新たな集客施設を検討していきたいと思っています。

未使用建物の有効利用を

福村 使われていない建物を有効活用することです。体を動かす施設を備えた大型店舗を誘致することが良いと考えました。

町長 既存建物の有効利用を考えることは非常に重要なことと認識しています。大型店舗の誘致も手段の一つではありますが、検討する余地はまだ多くあると思われます。どれが一番良い方法なのか、他自治体の事例や情報収集等を行いながら、健康寿命が延びて、活気あふれる町となるよう取り組んでいきます。

中学生



町活性化へ イベント開催を

むなかた ひな
棟方 陽菜 議員 平内中2年

棟方 町の活性化を目的としたイベントの開催について私は平内町を活性化するために、魅力のあるイベントがあれば遠くからでもたくさんの方が訪れ、盛り上がるのではないかと考え、平内町のイベントについて調べました。

平内町には、山や海などの豊かな自然があります。が、「夏泊ほたて海道トンネルマラソン」や「夜越山クロスカントリー」など主に山で開催されるイベントはあるものの、海で行われるイベントはありません。

そこで提案があります。平内町を盛り上げていくために海でも地引き網体験、釣り大会などといった体験型のイベントを設けてはどうでしょうか。町の考えをお聞かせください。



きれいな平内町にするために

すとう きらと
須藤 煌斗 議員 平内中2年

須藤 小学校のクリーン作戦で「もうらだいすき海岸」に行ったとき、想像を上回るゴミの多さに驚きました。西平内中学校でゴミ拾いを行った時も、ゴミの多さに改めて驚きました。きれいな平内町となるには、拾う側の意識はもちろん大切ですが、捨てる側の人に積極的に訴えていくことも必要ではないかと思いました。そのため道端のゴミを減らし、ポイ捨てをしづらくする対策があればいいと思います。

そこで提案があります。道端のゴミを減らすために地域で協力し、ゴミ拾いボランティア活動を実施すること。また、ゴミが多く捨てられているところにポイ捨て防止ポスターを貼ること。これらの取り組みにより、ポイ捨てに対する意識が変わり、きれいな平内町がつけられるのではないのでしょうか。



大島での「ホタテ拾い」

町長/見直しや新企画を検討します

町長 平内町で行われているイベントは、大小含めると約20種類あります。海のイベントは「ひらないの春まつり」、大島での「ホタテ拾い」、自転車で夏泊半島を一周する「夏泊半島ブルーロードライド」があり、県内外からの多数の参加で大変好評をいただいています。地引き網体験もイベントではありませんが、平内町漁協で幼稚園や施設を対象に行っています。以前あった「ブルーロードウォーク夏泊」「椿山クラフトキャンプ」は、新型コロナウイルス感染症の影響や運営スタッフの不足などで今は行っていません。

今後は、提案頂いたイベントも含め、見直しや新たな企画を検討していきます。



ボランティアによる清掃活動

町長/不法投棄のない町を目指します

町長 昨年度のボランティアによる清掃活動は78件実施され、回収した数量は約17トン、26町内会をはじめ16の各種団体、4人の個人の方が自主的に取り組みました。

ポイ捨てなどによる不法投棄をなくすため、町では看板や監視カメラの設置、広報ひらな、町ホームページなどで啓発活動を行っています。18年度からは管内の小学生を対象に「平内町環境ポスターコンクール」を実施し町内の各施設、駅、バス停に掲示して「不法投棄」及びポイ捨ての抑制に取り組んでいます。

「ポイ捨て防止ポスターを設置する」ご提案については、捨てられるゴミが多く発生している区域には、町で看板を設置しているところですが、ポスターの耐久性、新たなポスターの掲示板の設置などを検討したいと考えています。



住み良い町づくりを

町長/期待に応えるよう 尽力します

しばた あゆな 議員 平内中2年
柴田 歩奈

災害時の避難経路を

柴田 私の住む白砂地区では、災害時には海沿いを通して避難しなければなりません。避難経路を多くし、海沿いを通らなくても済むように山に避難できる道路をつくるのはどうでしょうか。

町長 町全体の海岸線に並行した山沿いの避難道路の建設には、莫大な予算が必要となり、国・県の予算での実現は、困難であると考えています。町では、県道夏泊公園線が通行できなくなり、夏泊半島沿岸部の各地区が孤立した場合、海上保安庁や自衛隊等に協力を要請することになっています。

便利の良い交通（電車・バス）便を

柴田 電車とバスの利用者にとって、接続時間が合わず、また、合っても決まって混雑になり、不便さを感じています。そこで、交通の便が良くなるように電車とバスの時間を調整してほしいのです。



閉校した体育館の開放を

えびな らいと 議員 平内中2年
蝦名 礼翔

蝦名 休日に家族で体を思いっきり動かし、大人も子どもも楽しく遊べるような施設が近くになく、身近に遊べる場所があればと感じることがありました。

現在平内町の施設は、平内町立体育館、平内町立体育館浅所分館、平内町武道館、B&G海洋センター、平内町営野球場、平内町営陸上競技場とありますが、町民が体を動かす機会を増やし、健康につながるよう、閉校等で使われていない体育館の開放をしてはどうでしょうか。

町長/現状では難しいです

町長 設備などが老朽化し、体育施設として活用するには、多額の改修費用や維持費用が必要ですので、現状では難しいと考えています。



津波の到達時間 (町ハザードマップより)

地名	しらす白砂
津波影響開始時間	6分
第一波到達時間	22分
最大波到達時間	141分

※日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震を想定

町長 デマンド型乗り合いタクシーの導入後には、利用率や要望の多い時間帯等への振り替えや増便などの可能性等、町民バスの再編も検討課題としています。

街灯を増やして

柴田 夜道も明るく安全な町になるよう、街灯を増やしてほしいのです。具体的には、以前、暗くて歩道の脇に落ちてケガをした上白砂のバス停から近くの神社までの間に、もう1本増やしてほしいのです。

町長 地域の街灯は各町内会で設置・管理をしています。町では町内会で設置した街灯の新設・修理に係る費用及び電気料金の一部に補助金を出すことで、街灯の設置を進めています。



旧小湊中学校体育館

部活動の地域移行はどうか

蝦名 平内町を含めた中学校の部活動は、専門ではない先生が顧問となることもあり、専門的な指導を受ける機会が多いとはいえません。専門的な指導を受ける機会の確保と、指導者が代わりにくい部活動の地域移行の計画は、今後示されるでしょうか。

町長 青森県では、今年4月7日に「公立中学校における休日の部活動の地域移行推進計画」を策定し、平内町を含めた各市町村教育委員会と連携していくことにしています。当町でも今後、ニーズ調査等を行いながら検討していくものと思っています。

部活動の地域移行は指導者や受け皿の確保の他にも指導料、保険加入料や送迎の保護者負担増など、様々な問題があります。学校や保護者、町スポーツ協会を中心とした各種団体などと、慎重に協議していく必要があると認識しています。

2023年 第3回定例会開催 9月8日～15日



第3回定例会開会

2022年度 一般会計 歳入歳出決算を 特別会計 認定しました

23年第3回定例会を9月8日から15日までの8日間の会期で開催しました。

会期中の決算特別委員会において審査された、22年度一般会計・各特別会計決算のほか、23年度一般会計・各特別会計補正予算案、人事案件など21件が町長から提出され、審議の結果いずれも原案のとおり「認定」「可決」「同意」しました。また、陳情1件を「採択」し、議員提案による条例案1件、国への意見書案1件を原案のとおり「可決」しました。

2022年度 一般会計決算額

歳入 84億6273万円
歳出 82億9096万円

歳入歳出の差引残額1億7177万円は繰越明許費の一般財源分2010万円を差し引いた残額1億5167万円のうち、地方自治法の規定に基づき、財政調整基金へ8000万円を積立し、残額7167万円を2023年度へ繰越することになりました。

決算額

地 方 交 付 税	35億8557万円	42.4%
国 庫 支 出 金	12億2012万円	14.4%
町 債	10億4969万円	12.4%
町 税	9億1040万円	10.8%
県 支 出 金	7億2936万円	8.6%
そ の 他	9億6759万円	11.4%

当初予算額

地 方 交 付 税	35億8557万円	42.1%
国 庫 支 出 金	12億6835万円	14.9%
町 債	10億6769万円	12.6%
町 税	8億8787万円	10.4%
県 支 出 金	7億4668万円	8.8%
そ の 他	9億5630万円	11.2%

歳入

歳出

特別会計繰出金等	16億3644万円	19.7%
教 育 費	13億6742万円	16.5%
民 生 費	12億8398万円	15.5%
総 務 費	11億4029万円	13.7%
衛 生 費	6億6483万円	8.0%
公 債 費	6億 940万円	7.4%
土 木 費	5億4584万円	6.6%
農 林 水 産 業 費	4億5369万円	5.5%
消 防 費	3億6342万円	4.4%
商 工 費	2億2565万円	2.7%

特別会計繰出金等	16億4332万円	19.3%
教 育 費	13億8278万円	16.3%
民 生 費	13億1382万円	15.4%
総 務 費	11億9774万円	14.1%
衛 生 費	7億1111万円	8.4%
公 債 費	6億1021万円	7.2%
土 木 費	5億7383万円	6.7%
農 林 水 産 業 費	4億7226万円	5.5%
消 防 費	3億6919万円	4.3%
商 工 費	2億3820万円	2.8%

町の積立金と借入金

◆基金（積立金）の総額

基金名	2022年度末残高
財政調整基金	6億8759万円
減債基金	3億4577万円
地域づくり特別事業基金	8370万円
公共施設等整備基金	6億5327万円
土地開発基金	8520万円
奨学資金貸付基金	5938万円
特別導入事業基金（動産含む）	329万円
地域福祉基金	2828万円
ふるさと・水と土保全対策基金	25万円
下水道事業債償還基金	373万円
国民健康保険財政調整基金	2億9124万円
介護保険財政調整基金	8610万円
森林環境基金	1965万円
電源立地地域対策事業基金	0円
合 計	23億4745万円

借入金、企業債の償還には、のちに地方交付税に参入するのがあります。

※事業には現世代にとどまらず次世代、3世代も利用することから借入れをおこなっています。
多くは25年払いで償還しています。

◆借入金の総額

地方債（借入金）	2022年度末残高
公共事業等借入金	3億9509万円
一般単独事業借入金	22億8732万円
学校教育施設整備等事業借入金	1億7237万円
一般補助施設整備等借入金	1億8831万円
辺地対策事業借入金	1億7548万円
過疎対策事業借入金	17億6605万円
災害復旧事業借入金	2006万円
一般廃棄物処理事業借入金	2279万円
財源対策借入金	2億2159万円
臨時財政対策借入金	21億5463万円
その他	5億3625万円
合 計	79億3992万円

企業債（借入金）	2022年度末残高
病院事業借入金	6億 126万円
水道事業借入金	11億6887万円
農業集落排水事業借入金	4億9837万円
漁業集落環境整備事業借入金	7億3538万円
公共下水道事業借入金	24億 163万円
合 計	54億 551万円

町の財政健全化判断比率・資金不足比率

健全化判断比率

比率の名称	当町の比率	早期健全化基準
実質赤字比率	—	15%
連結実質赤字比率	—	20%
実質公債費比率	10.1%	25%
将来負担比率	71.4%	350%

※実質赤字額及び連結実質赤字額がないため「—」で表示

資金不足比率

比率の名称	当町の比率	経営健全化基準
水道事業会計	—	20%
病院事業会計	—	20%
公共下水道事業	—	20%
農業集落排水事業	—	20%
漁業集落環境整備事業	—	20%
特殊索道事業	—	20%

※資金不足比率が算定されないため「—」で表示

当町は、いずれも基準を下回っています。早期健全化基準を上回るとさまざまな制約が発生します。

〈実質赤字比率とは〉

一般会計等の赤字額を指標化

〈連結実質赤字比率とは〉

全ての会計の赤字を合算し、町全体の赤字額を指標化

〈実質公債費比率とは〉

借入金の返金額の大きさを指標化

〈将来負担比率とは〉

借入金や将来支払うことになる負担の現時点での残高を指標化

〈資金不足比率とは〉

公営企業の資金不足を、事業規模である料金収入と比較して経営の深刻度を示した比率

決 算 審 査



委員長
小笠原 智鶴子



副委員長
倉 内 清 一

適正に使われましたか 今後 どう活かしますか

決算審査は予算が目的にそって、
「適正に、効率的に執行されたか」
「どのように行政効果が発揮できたか」
「今後の行政運営に改善工夫がなされるべきか」
を審議する場です。

一 般 会 計

歳入

▼ふるさと納税制度見直しの影響は

亀田弘徳委員 寄附金額が前年度より2000万円増額の4743万円となった理由と、ふるさと納税制度の経費見直しに伴う当町の影響はどうか。

総務課長 楽天サイトの開設と民間業者の掘り起こしによるホタテ活貝、ベビーホタテ、貝柱の増やゴルフリンクスでも利用者が増えている。また、ブルーモリス会社のスキー提供により増額となった。寄附金額の3割ルール返礼金は、商品の価格が高騰しているので寄附をためらうのではないかと。

▼町債の繰上げ償還を

亀田弘徳委員 実質単年度収支が20、21年度までは赤字だったが、22年度は5000万円の黒字である。しかし、国庫支出金が2億6000万円減額で、町債が3億9000万円増えているので繰上げ償還が必要ではないか。

総務課指導監 年度末に、町が出資していた「青森地域広域事務組合振興基金」から6400万円の返

還金が黒字の要因と思っている。町債が伸びたのは平内中学校の建設リフォーム額が大半である。繰上げ償還は国との関係があるのでタイミングを計っていききたい。

▼なぜ、海岸漂着物補助金が減額なのか

田中茂勝委員 「青森県海岸漂着物等地域対策推進事業費補助金」672万円で年々減額となっている。補助金の総額が減ったのか、または市町村の配分率が変わったのか。

町民課長 国から県に補助金が入り、市町村に配分されている。前年度より6万円の減額である。減額にならないように要望したい。

田中茂勝委員 7年前は1000万円だった。当町は夏泊半島を抱え、東・西風による漂着物が多いので関係機関に事情を詳細に説明し、予算の増額を働きかけて頂きたい。

歳出

▼シルバー人材センター 事業の展開は

亀田弘徳委員 シルバー人材センター活動業務委託料451万7000余円だが、人員と活動状況は。また、23年度現在の人材センター業務状況はどうか。

福祉介護課長 請負件数と金額は増加し、現在会員は開設当時の10人から20人で、うち女性が2人である。

亀田弘徳委員 会員増の計画は人材センターにあるのか。

福祉介護課長 事務局は社会福祉協議会なので不明であるが、体調不良、家庭事情で退会者も一定数

いると伺っている。現人員数の維持、活動をお願いしたいと思っている。



事務局の社会福祉協議会

▼処分前のPCB 液漏防止で保管を

亀田弘徳委員 PCB処分委託料401万円だが、22年度で一端区切りがついて処分が終わったと認識していいのか。

総務課長 総務課が保管しているものはないが、農政課の調査委託分でPCBが出れば処分をする。

亀田弘徳委員 PCBを含む機器がある場合は保管して処分することだが、液漏れしないための保管を考えるべきだ。

総務課長 万全を尽くしていきたい。

▼適正な町長公用車の使用を

太田満則委員 今年3月定例会の一般質問で、町長が職員の結婚式に公用車を使用するのはいかがとの問いに、調べておくとの答弁であったが、結果はどうだったか。

総務課長 結婚式後に元議長の葬儀があり、遺族の依頼で日程と公務の関係で公用車を使用した、結婚式会場への移動使用は法律に違反しているので改めたい。

太田満則委員 最近、藤沢地区に設置された選挙事務所に、町長の公用車が行っているとの話が聞こえてくるがどうか。

町長 事実である。遺憾であり、十分に気をつけたい。

▼地域おこし協力隊 人員安定の方策を

亀田弘徳委員 地域おこし協力隊員の人員を安定させ、恒常的に活動を続けさせるための方策は。

企画政策課長 月末に1人が退任するので残り1人になる。3年間全うする隊員がいない状況が続いているので、検証しながら考えていきたい。

亀田弘徳委員 隊員の精神的なメンタルケアはどのように考えているのか。

企画政策課長 オフィスに赴き、活動報告や悩みを聞いたりしてケアはしているが、細部まで至らないのが事実である。メンタルケアを注意しながら進めていきたい。



地域おこし協力隊活動拠点「まちなかオフィス」

▼RPA今後の行方は

亀田弘徳委員 RPA共同利用分担金は今後どのように推移をするのか。

総務課長 22年度は使用システムのみで、23年度は健康増進課で健康カルテに利用したい。

※RPA パソコンで行っている事務作業を自動化できるソフトウェアロボット技術のことです。

▼林道増田～浅虫線 完成の目途は

太田満則委員 林道増田～浅虫線改良事業が開始から長年経つ。国道4号の迂回路と認識しているが完成の目処は。

地域整備課長 県の報告では浅虫側の用地取得に時間を要し、完成年度は申し上げられないとのことである。



増田側 新設道路を工事中

▼よごしやま温泉大広間冷房機器 修繕は

田中光弘委員 よごしやま温泉の修繕費264万5000円は町出費だったが、修繕費の取り扱いに関し、指定管理者との協定はどうなっているのか。

水産商工観光課長 50万円までは指定管理者で、超えた場合は協議で決定することになっている。

田中光弘委員 温泉大広間がコロナ禍も落ち着き、使用となった。8月に行われたイベントでは冷房機器が故障の下で、扇風機8台で対応したが、出演者、お客さんには苦勞をかけたようである。修繕には多額の予算が伴うが措置はどうか。

水産商工観光課長 空調設備の配管の腐食によるもので、来館者に不便をかけないように早期に対策を講じたい。

▼救急車の搬送件数は

太田満則委員 熱中症による救急車の搬送件数は。

消防署長 23年度6月から9月までは7月4件、8月11件、併せて15件である。

国民健康保険特別会計

歳入 20億2881万円 歳出 20億229万円

加入者3,263人 22年度末現在

質 疑

▼集団検診 効率的な運営を

田中光弘委員 40歳から75歳未満の特定健診受診率向上へ、集団検診後に未受診者へ手紙や電話で勧奨を行っているが、22年度は何件勧め、効果はどうか。

健康増進課長 以前は手紙、電話だったが、20年度からはハガキの勧奨で、22年度は約1,700人に送付している。受診率が伸び、効果があるのではないかと。

田中光弘委員 集団検診には75歳以上の方も受診し、問診票聞き取りには2組～3組で保健師が対応している。無記入者が多いと項目数の多い問診票なので聞き取りに時間がかかる。そこで、事前に保健協力員に記入の協力を仰ぐか、当日、記入者と無記入者との組分けをするなど、工夫してはどうか。

健康増進課長 スムーズに進むように検討したい。

平内中央病院事業会計

●収益的収入15億4905万円

支出15億3810万円

入院 一般病床48床 療養病床48床
延べ26,647人 1日平均73人で
前年度より495人（1.9%）1日平均1.4人の増。

外来 延べ24,178人 1日平均99.5人で
前年度より480人（1.9%）1日平均2.4人の減。

介護サービス事業 延べ利用回数
前年度より1,072回（20.5%）減の4,162回。

●資本的収入 1億8142万円

支出 2億6505万円

不足額は、過年度分及び当年度分損益勘定留保資金で補填。

損益勘定留保資金とは

現金の支出を必要としない費用。減価償却費、繰延勘定償却、資産減耗費などの計上により企業内部に留保される資金。

質 疑

▼修学資金貸与の現状は

田中光弘委員 長期貸付金が300万円である。19年度から医師月30万円以内、薬剤師月15万円以内、看護師月10万円以内の「平内町医療職修学資金貸与制度」がスタートしたが、22年度の内訳並びに4年間の推移を。

病院事務局長 薬剤師1人180万円、看護師120万円の300万円で、この間2人である。23年度に新たに看護師1人が対象となった。

▼医療従事者の負担軽減の指標を

亀田弘徳委員 医師、看護師の負担軽減の指標が必要と思うが。

病院事務局長 患者の待ち時間が長くならず、また医療従事者の負担軽減も含め検討していきたい。

▼介護サービス事業収益の減額理由を

亀田弘徳委員 介護サービス事業収益が予算額に比べ、1782万9000円の減額理由は。

病院事務局長 コロナ市中感染により、22年度の8月から3月までの訪問リハビリの時間短縮と必要最低限に抑えたため、サービス実収益は1500万円減であった。

▼修繕の予算執行はどうか

田中茂勝委員 修繕費は当初予算と比べてどうか。施設が古くなり入院患者から不具合を感じているとの声も聞か。

病院事務局長 予算内で収まっている。修繕が完結しない場合は次年度へ継続している。不便をかけるためにも早期に対応できる件は早期に対応したい。



介護保険特別会計

歳入 14億8143万円 歳出 13億7799万円

対象者 4,253人 認定者 743人 22年度末現在
前年度より、対象者(第1号被保険者)は8人減少。
認定者は3人の減少。対象者数はこれまで増加傾向
にあったが、20年度からは減少に転換している。

水道事業会計

●収益的収入 3億899万円 支出 2億4189万円

給水人口は9,689人 給水普及率は96.7%

- ・給水拠点確保事業では
- 狩場沢、内童子地区の配水管布設替工事。
- 町道茂浦線の配水管布設替工事、東田沢漁港並び
に町道沼館線の配水管布設工事。
- ・機械設備では
- 白砂及び狩場沢浄水場の取水ポンプ取替工事。

●資本的収入 1億285万円 支出 2億4008万円

- ・資本的収支で不足する額は、現年度分損益勘定留
保資金、現年度分消費税、地方消費税資本的収支
調整額、建設改良積立金で補填した。



狩場沢地区配水管布設替工事

漁業集落環境整備事業特別会計

歳入 1億 618万円 歳出 1億 505万円

加入世帯 406世帯 加入率 53.7% 22年度末現在



東田沢地区機械設備工事

後期高齢者医療特別会計

歳入 3億3560万円 歳出 3億3362万円

対象者 2,232人 22年度末現在

- ・対象者数は前年度より81人増。
- ・保険料率は前年度比、所得割率が8.30%から
8.80%へ、年間保険料限度額64万円から66万円に
引き上げ。
- ・支出はすべて後期高齢者医療広域連合へ。

公共下水道事業特別会計

歳入 4億6589万円 歳出 4億6517万円

加入世帯 874世帯 加入率 43.14% 22年度末現在



小湊地区 污水管布設工事

農業集落排水事業特別会計

歳入 1億5104万円 歳出 1億4929万円

加入世帯 596世帯 加入率 87.0% 22年度末現在



西平内処理場暖気機 装置修繕

特殊索道事業特別会計

歳入 2448万円 歳出 2424万円

- ・指定管理料 1653万円
- ・圧雪車、除雪機借上料 600万円
- ・その他

ホタテ残渣 収集運搬 処理業務 委託料 など 1億7531万円を増額 総額73億4528万円

主な歳入

(万単位で端数処理しています)

◆諸収入	9392万円 (9302万円 平内漁協からのホタテ残渣処分料)	◆繰越金	5167万円	◆町債	1390万円
◆国庫支出金	1325万円	◆県支出金	223万円		

主な歳出

●ホタテ残渣関連	9302万円
・運搬委託料	1151万円
・処理業務委託料	8151万円



ホタテ残渣

●移住・定住促進事業費	486万円
・新築住宅建設補助金	300万円
・中古住宅取得補助金	100万円
・青森県移住支援金	60万円
・その他	26万円

●農林関連	
・農業用道水路補修事業	700万円
・農業施設整備等事業 (PCB調査委託料)	238万円
・林道整備事業	396万円
県事業の林道茂浦～野内畑線整備事業で、 林道起終点で用地取得が必要。	

●放課後子どもプラン推進事業費	302万円
指導員2人が決まったことによる人件費。	
●勤労青少年ホーム維持管理費	168万円
●町防災行政用無線関係修繕料	154万円

●デマンド型交通運行委託料	430万円
事前予約制の乗り合いタクシー	

運行台数	1台(乗客定員3人)通院・買い物の 時間帯に1時間1回運行(随時運行で はない)
予約方法	1時間前までに電話にて予約。予約一 杯の場合は、別の時間帯を案内する。
運賃	1乗車につき500円程度(定額制)

●ふれあいパーク広場管理事業費(芝刈機)	450万円
夜越山パークゴルフ場芝刈機の劣化による買 い換え1台。	



パークゴルフ場開設時から20年目の芝刈機

●道路維持補修工事費	879万円
●システム改修委託料(共通納税システム)	336万円
●港湾改良事業	240万円
●自殺対策強化事業費	231万円
第2期自殺対策計画(24～28年度)の策定費	

●平内町公営塾運営委託料 172万円
10月から翌2月まで、平内中学校3年生希望者に、高校入試へ向けて週1回60分×2コマで放課後時間に講座を実施。

●学校施設関連 960万円
・小学校施設維持管理事業 802万円
山口小多目的ホール暖房機器改修
・中学校施設維持管理事業 159万円

質疑

▼公営塾の効果は

Q 公営塾は開始して間もないが効果はどうだったか。

A 一昨年度からの事業で、昨年度は夏休み、冬休み、春休みに3日間ずつ行った。しかし、冬季期間中は進路が決まっていることもあって、受講生が減っている。進路を決める前の夏休みから2学期間の実施が効果が高いと考えている。効果はこれから検証したい。

▼橋梁補修費は大丈夫か

Q 橋梁数が多く補修が追いつかないとの報道を見受けるが、当町はどうか。

A 5年に一度、橋梁点検を行ない、その際に劣化の具合を全部調査することになっている。劣化がひどく傷んだ箇所は、計画を練って修繕を毎年行っている。

特別会計

平内中央病院事業会計

資本的収入、支出とも1040万円増額
総額4億 256万円

資本的収入		
企業債	920万円	
一般会計負担金	120万円	一般会計より
資本的支出		
建設改良費	920万円	全自動散剤分包機 膀胱用超音波画像診断装置
医療職修学資金貸付金	120万円	年間看護師1人分

国民健康保険特別会計

3476万円増額 総額19億4497万円

歳入	
繰越金	2652万円
諸収入	976万円
基金繰入金	△152万円
歳出	
基金積立金	6396万円
諸支出金	1024万円
国民健康保険事業費納付金	△3944万円

介護保険特別会計

9641万円増額 総額15億1291万円

歳入	
繰越金	1億344万円
支払基金交付金	73万円
国庫支出金	68万円
県支出金	34万円
繰入金	△879万円
歳出	
諸支出金	6234万円
基金積立金	3131万円
保険給付費	270万円

※少額な項目は省略しております。

後期高齢者医療特別会計

198万円増額 総額3億4376万円

農業集落排水事業特別会計

314万円増額 総額1億9562万円

公共下水道事業特別会計

860万円増額 総額3億8263万円

人 事

監査委員

選任に同意

おおさか しげよし
逢坂 重良



現委員が8月31日に辞職したことに伴い、後任の逢坂重良氏（62）の選任に、満場一致で同意しました。

任期：23年9月19日～27年9月18日 4年間



固定資産評価審査委員

再任に同意

みつや よえもん
三津谷 誉右エ門

10月24日で任期満了の三津谷誉右エ門氏（74）の再任に、満場一致で同意しました。

任期：23年10月25日～26年10月24日 3年間

発 議

議員提案

条例を制定

◆平内町議会議員の請負の状況の公表に関する条例

地方自治法の一部改正に伴い、議会の議員に係わる請負に関する規制が緩和されました。

町に対し請負する町議会議員が、請負の対価として各会計年度に町から支払を受けた金銭の総額等を

議長へ報告します。

議長が内容を公表することにより、請負の状況の透明性を図ることを目的とし、制定します。

意見書 関係機関に提出

◆再審法改正（刑事訴訟法の一部改正）を求める意見書

日本国民救援会青森支部（青森市堤町2丁目3-11）の陳情書を全議員賛同で採択、意見書案も可決し、関係機関に提出しました。

意見書抜粋

罪を犯していない人が、誤った捜査・裁判によって自由を奪われ、仕事や家庭を失い、築き上げてきた人生のすべてを、甚だしい場合は死刑によって生命さえ奪われます。冤罪は、国家による最大の人権侵害であり、速やかな救済されなければなりません。

しかし、冤罪事件は後を絶たず、その救済に気の遠くなるような年月がかかるという実態にあります。そもそも「刑事訴訟法」は明治憲法のもとに作

成され、国民主権の現憲法にかわっても1949年に一点の改正のみで終わり、刑事訴訟法第4編の殆どが残り、現在まで74年間見直しされず続いていることに原因があります。

以上を踏まえて以下のとおり求めます。

- 1、検察官の手持ち証拠の全面開示を行うこと。
- 2、再審開始決定に対する検察官の不服申し立てを禁止すること。
- 3、再審請求人の権利や法廷の公開原則規定を新設すること。

提出先 内閣総理大臣 法務大臣

平内町議会

平内町議会基本条例

第3章 町民と議会の関係

第4条第4項 議会は、請願及び陳情を「町民による政策提案と位置づける」とともに、その審議においては、これら提案者の意見・要望を聴く機会を設けるよう努めるものとする。

◆ 採 決 結 果 ◆

議案番号	提出議案
議案第38号 ～ 議案第47号	令和4年度一般会計歳入歳出決算認定について 令和4年度特別会計歳入歳出決算認定について(9件)
議案第48号	令和5年度平内町一般会計補正予算案
議案第49号	令和5年度平内町国民健康保険特別会計補正予算案
議案第50号	令和5年度平内町国民健康保険平内中央病院事業会計補正予算案
議案第51号	令和5年度平内町特殊索道事業特別会計補正予算案
議案第52号	令和5年度平内町農業集落排水事業特別会計補正予算案
議案第53号	令和5年度平内町漁業集落環境整備事業特別会計補正予算案
議案第54号	令和5年度平内町公共下水道事業特別会計補正予算案

議案番号	提出議案
議案第55号	令和5年度平内町介護保険特別会計補正予算案
議案第56号	令和5年度平内町後期高齢者医療特別会計補正予算案
議案第57号	平内町監査委員の選任につき同意を求めることについて
議案第58号	平内町固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて
発議第6号	平内町議会議員の請負の状況の公表に関する条例案
陳情第3号	再審法改正(刑事訴訟法の一部改正)を求める意見書の採択を求める陳情書
発議第7号	再審法改正(刑事訴訟法の一部改正)を求める意見書案

以上24件 全議員賛成

議長交際費を お知らせします

期 間	金 額	主な支出
7月～9月	138,602円	青森県選出国会議員との懇談会、ひらない夏まつり反省会並びに慰労会 ほか

※議長交際費 議長が対外的活動をするための経費です。(慶弔費、見舞金、会費など)

一般質問 町政を問う

一般質問は執行機関に対して議員が町政全般の執行状況や将来の方針など、諸問題の政治姿勢を明らかにするものです。9月定例会では5人の議員が登壇しました。

田 中 大 議員 …… P18

- 1 ホタテ養殖残渣処分について

太 田 満 則 議員 …… P19

- 1 夜越山森林公園施設管理の見直しについて
- 2 猛暑日の続く中、町有施設を涼み場所として提供すべき
- 3 新庁舎に関わる説明会開催を求める
- 4 小学校の統廃合について

田 中 光 弘 議員 …… P20

- 1 総合計画について

田 中 茂 勝 議員 …… P21

- 1 除排雪作業員の確保について
- 2 ハチの巣駆除について

亀 田 弘 徳 議員 …… P22

- 1 青い森鉄道橋梁の保全及び防災対策について
- 2 通学路の標識について

※質問は通告順です。次ページからの質問と答弁は紙面の都合上、内容を要約して掲載しています。



たなか だい
田中 大 議員

ホタテ残渣処理施設 建設の見通しを

町長/ 建設検討組織の立ち上げへ

田中 当町の基幹産業であるホタテ養殖に伴う残渣処分は、長年の課題となっている。水産廃棄物である残渣は、処理に大きなコストがかかり、腐敗すると放つ悪臭も問題になっている。一般廃棄物である残渣処分は、町がその処理について責任を持つ必要がある。また、ホタテ加工業者が排出するウロは産業廃棄物となる。数年前までは口広地区に処理施設があったが、多い時で年間4,000トン超のウロを処分していたとのことだが、その処理施設も残念ながら閉鎖となってしまった。現在、処分受け入れの3社はいつ受け入れを中止するか不透明である。これには物流の2024年問題も関連して物流のコスト上昇に伴い、モノが運べなくなる可能性も危惧される。

茂浦地区に残渣仮置き施設があるが、風向きによっては、地域の方も我慢できないほど臭いがきついとの事だ。町内に処理施設があれば、仮置き期間は短縮され、悪臭対策にもなる。また、茂浦地区のみならず各漁協支所の残渣仮置き場周辺は、通年悪臭が酷い状況だ。町では昨年4月に観光面でのこ入れとして、夏泊半島の大島に「オーシャンビュー夏泊崎」の看板とともに、性の多様性にも配慮した「みんなのトイレ」を新たに整備したが、途中の海岸線に悪臭が漂っているのは、観光資源の効果も半減するのではないかと。

17年6月の三共刃型による公開実験、また、昨年1月には、三共刃型を含めた数社による事業説明会は実施されたものの、全く進捗が見えない。漁業者の方々からは、「例の町長肝いりの三共刃型は、どうなっているのか。今も関係は続いているのか」との声も多数寄せられている。

一般廃棄物処理施設を町内に建設することは必須であると考えている。町の現状や今後の見通しについて具体的なロードマップを明示し、三共刃型との現時点での関係を問う。



基幹産業のホタテ

町長 22年度の養殖残渣は約2,500トンで、前年度より約1,000トン少なくなっている。これは、養殖籠に付着する海洋生物の発生が少なかったほかに、国庫補助事業を活用しての洋上洗浄機の導入が効果を上げていていると思われる。

県境を越えた一般廃棄物の処理は、一時避難的なもので、できるだけ早い時期に町内で処理できる施設が必要であると、以前にも答弁した。ホタテ残渣処理施設は、三共刃型工業株式会社がバイオ処理という提案の他、22年1月に『平内町水産業系廃棄物処理勉強会』を開催し、1大学、6社から提案をいただいた。その後も、三共刃型工業は同社が町内に工場を建て、残渣処理と貝殻リサイクル事業を行いたいと当町を訪れているが進展はない。

残渣処理は、これまで青森県重点事業に関する要望の最重点要望項目として県に要望している。県からホタテ残渣処理に関する指導や情報等の教示を受け、また、処理施設建設に向けて検討する組織の立ち上げも視野に入れながら、町の基幹産業であるホタテ養殖を安定して末永く続けるための施設整備と、夏泊半島に多くの観光客が来ていただくため、環境整備に取り組んでいきたい。

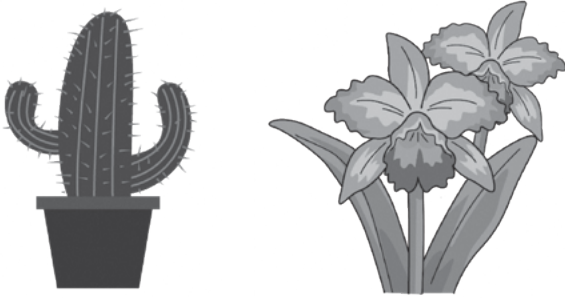
意見 答弁の中で、残渣処分場の整備に向けた具体的スケジュールが示されていない。本当に漁業者と、処分場を早急に整備する必要があるという危機感を共有されているのか。

夜越山サボテン園 契約見直しを



おお 太田 みのり 議員
みつ 満則

町長/ 現状で契約



太田 夜越山森林公園は開設から約50余年経過したが、当時の契約により現在に至る。町の収入分は入園料のみで、園内で購入したサボテン・洋ラン・草花等は委託先の収入である。大半の方は町の収入と勘違いしているのではないか。

22年度決算では園内の経費は約3800万円、一方町の収入分は約77万円である。前回の管理運営見直しの質問に、「次回契約の際に考える」とのことだったが、どうなったか。

町長 開設から今日まで委託先の功績なので、引き続き業務委託をしたい。

太田 自宅借地の契約書はどうなっているのか。

水産商工観光課長 電気料を頂いている。

太田 委託先の商売になぜ町のお金をつぎ込むのか。温室の電気代、水道代、肥料代等の維持管理の契約を見直しすべきだ。

町長 洋ランの研究や助言を頂いているので見直すつもりはない。

冷房設備公共施設「涼み場所」として提供を

太田 5年前に公共施設の冷房設置促進。病院・青少年ホームを「涼み場所・高齢者サロン」として提供すべきと提案した。その後、学校はじめ各施設に冷房機器が設置された。今年は例年になく猛暑日が続いている。冷房設置の町有施設を「涼み場所」として利用させるべきだ。また、利用できるのでは

町長/気軽に利用を

れば町内放送で周知すべきだ。

町長 冷房設置の公共施設は役場庁舎をはじめ青少年ホーム、図書館、開発センターである。開館時間内は常時開放されているので気軽に利用できるようになっている。防災無線等でのお知らせはやぶさかではない。

新役場庁舎3地区で説明会を

太田 新庁舎建設に伴う説明会を東・小湊・西地区での開催を求める。建設区域は今後50年余りにわたり、町の中心地になると考えられる。場所、建物規模、設備、付属施設等、利用する町民目線での建設が必要だ。また、数億円高くなるリース契約による建設についても、疑問に思っている人も多数い

町長/昨年度に町民代表と実施済み

るので丁寧な説明が必要だ。

町長 来年4月中に本契約を締結し、設計に入る予定である。説明会の実施は昨年度、町民代表による意見交換会、町議会からの要望を取り入れた公募型プロポーザルを開始しているので、今のところ考えていない。

小学校統廃合 常に話題に

太田 生徒数の減少に伴い、今年の春「平内中学校」が開校した。今後、児童数の減少に伴い小学校の統廃合についても避けられないと考える。ことあるごとに話題にすべきだ。

町長 中学校統合の際にも議論となったが、小規模校なりにメリットがある。地域のみなさんや小学

町長/広く意見を吸い上げたい

生・幼児の保護者から広く意見を聞く機会を設け、校舎のあり方等を含め、様々な角度から検討して行きたい。

教育長 将来的な統合は必要であると考えざるを得ないが、拙速にならないように、かつ、確実な意見集約を進めながら、準備を進めたい。



たなか みつひろ
田中 光弘 議員

総合計画との整合性は

町長/ 町民が納得する行政へ

田中 総合計画の長期振興計画は、平内町がどのようなまちづくりを進めていくべきか、また、どんな方で地域を活性化させていくか、新たなまちづくりを進めるための道標であり、町行政運営の根幹をなす計画である。

実施計画の見直し状況は

第六次長期振興計画は4年目で、実施計画は毎年見直しを図るが、状況を示していただきたい。

町長 第2期総合戦略を実施計画、戦略的ビジョンと位置づけ、長期振興計画に掲げた将来像を実現するため、PDCAサイクルを確立し、取り組みの効果・検証、評価を毎年度実施している。

田中 総合戦略政策分野で32事業のうち検証、評価は15事業である。残りの17事業も検証するべきだ。

企画政策課長 大変重要なので、全てを網羅的に検証したい。

基本計画の見直し後に意見を求めよ

田中 策定時の審議会委員の任期は2年と定めている。基本計画の期間は2020年度から2024年度までを前期とし、2025年度から2029年度までの5年間で後期計画としている。中間の見直し後に意見を求める場が必要ではないか。

町長 前期5年の振り返りと見直し等を実施していく中で、審議委員の意見を求める場が必要と判断した場合に会議の場を設けたい。

買い物困難者対策を

田中 以前、買い物困難者対策の質問に、「県民生協が週2回、コーポスマイル便の移動販売事業を始めたが、町でも買い物困難者の減少へ取り組んでいきたい」との答弁だった。その後の第六次長期振興計画策定に向けての町民意識調査を受けて、買い物困難対策が課題として取り上げている。地域ごとの実態やニーズの把握に努め、対策を練る必要があるのではないか。



デマンド型のイメージ写真

町長 町地域公共交通会議では、自宅前から行きたい先の玄関前まで行けるドアツードアでの運行を行うことにしているので、買物困難者対策の一助になると考えている。地域ごとの実態やニーズ把握も、モデル指定の3地域を先行的に進めていくことにし、必要に応じて全体の把握等を行いたい。

3期12年 総括と抱負は

田中 町長は2011（平成23）年11月に就任され、3期12年職務を全うしている。第五次長期振興計画がその年の3月に策定され、10カ年の計画に携わっている。さらに第六次長期振興計画4年目へと職務、任務を遂行している。これまでの総括及び今後の抱負を伺いたい。

町長 町の長期振興計画での政策・施策が、全て実行、実現できたわけではないが、初心を忘れることなく、町民の声に耳を傾け、町民の心に寄り添い、誠心誠意、全力で取り組んできた。町の宝である子どもたちのために、給食費の無償化や統合平内中学校の開校。耐震問題を抱えている役場庁舎も、町民の命、暮らしを守る重要拠点としての建設地の選定や設備など、大きく前進することができたのは、町民の支援、協力があってのことである。

町の人口も大きく減少し、少子化、高齢化に歯止めがかからない、待ったなしの危機的な状況であることも深く認識している。少しでも人口減少の抑制、町民の暮らし向上、幸福実現のため、町民が心から納得できる行政を一つずつ積み重ねていきたい。

除雪作業員の確保と 人材育成を



たなか しげかつ
田中 茂勝 議員

町長/不足が生じた場合は町で雇用も



除雪に励む作業員

田中 当町の除排雪道路延長は約120キロメートルだが、昨年度、除雪作業請負業者は16社、約55台の除雪機械、60名ほどの作業員が除雪作業に従事した。除雪作業は①資格や経験と土地勘が必要②出勤時間が深夜③積雪量によっては長時間の勤務に及ぶ④住民からの苦情があるなどの精神的な負担もあり、若い人が辞めていくとの報告もある。

土木建設業界では既に高齢化等により人材不足が

深刻で、今後も少子高齢化が進行することが予想されている。冬期間の町民の移動と物流が円滑に行われることが求められるので、発注者の町と受注者の土建業者等が現状認識を同じくし、人材確保と育成に取り組むべきと考えるが、現状と今後の除排雪体制について伺う。

町長 土木建設業界では、少子高齢化により人手不足が問題となり、当町も例外ではない。当町の除雪体制の現状は昨年度15社に委託し、機械の台数は町所有の10台、業者からの借上げ分45台の計55台である。運転手は各業者が手配し、人数は予備の運転手を含めて63人。機械の台数に対しては足りている状況で、ここ数年この体制に大きな変化はない。

現状では場所によって除雪に時間を要しているところもあるが、何とか対応している。

今後の対応は、除雪車の台数及び運転手の確保が重要であると考えている。除雪車は業者の増車は厳しいので、補助金を活用し、町で購入増が必要と考えている。運転手は各業者が手配しているが、仮に不足が生じた場合は町で直接の雇用などを検討する必要がある。

蜂の巣駆除に古い消防車の活用を

田中 蜂の巣は往々にして軒下などの高い場所に作られ、高齢者には駆除することは大変危険を伴い、大きな負担である。親戚や知人などが対応してくれれば、殺虫スプレーを購入するだけでよいわけだが、それができない場合には、蜂の巣駆除業者に依頼することとなり、費用は3万円を超える事例もある。町では駆除費用の半額助成、その上限は1万円となっているが、年金生活者には大きな負担である。そこで着目したのが車両更新を迎えた消防自動車を活用した対応である。はしご付きの古い消防自動車を1台準備して、蜂の巣駆除に充てる新たな仕組みを作ることは可能か尋ねる。

町長 22年度は補助金の交付が27件、防護服貸出しが45件だった。昨年度、口広分団に配備した

町長/活用は困難 助成金を増額したい

小型動力ポンプ付積載車の更新をもって、消防ポンプ車等の更新事業も一巡したので、今後しばらくの間、消防ポンプ車等の予備車両は発生しないことになる。

仮に消防ポンプ車等の予備車両が発生した場合でも、火災等以外の使用は想定していない。さらに車両の維持管理の点でも、蜂の巣駆除目的への活用は困難と考える。しかし、高齢者等の負担軽減につながるような支援策を検討したい。

田中 消防自動車の活用が難しいとの事であれば、蜂の巣駆除に対する助成金の増額が考えられないか。

町長 早い機会に増額したい。



かめだ ひろのり
亀田 弘徳 議員

「青い森鉄道」橋梁の 保全・減災対策を万全に

町長/ 3者で連絡を密にし対応

亀田 22年8月の大雨で、JR津軽線が被災し、蟹田～三厩間の鉄路復旧が難渋している。青い森鉄道を抱える当町も自分ごととして捉える必要がある。第二山口踏切西側の鉄道橋梁の

1. 保全状態及び維持管理について
2. 当該橋梁の基礎状況、保全、維持管理の状況について
3. 河川管理者と町、青い森鉄道との間での情報共有について町の考えを伺う。

町長 青い森鉄道では直近の点検の結果では保全状態に大きな問題はないとのこと。橋梁点検は2年に1回の通常全般検査及び10年に1回の特別全般検査を実施している。しかし、橋梁が被災した場合には、速やかに安全・安定輸送の確保を図っていくよう、青い森鉄道へ要望していく。また、橋梁の架かる河川管理者は青森県なので県、青い森鉄道、町の3者で情報共有など連絡を密にして、対応していく。

亀田 第二山口踏切西側の鉄道橋梁の上流、下流は葦が繁茂している。また下流には以前に損壊した護岸と思われるコンクリートの残骸がある。適切な河床整理などで橋梁の被災時の減災を図るべきだが、町の考えは。

町長 当該河川は、大雨時はもとより通常時から



東北本線複線化以降の橋

町職員がパトロールを行い、必要があれば雑木の伐採や河床整理を行うこととなっている。また、町のパトロールの際に異常が見られた場合は、県へ情報の提供を行い、適切な対応をお願いしている。

亀田 山口踏切東側のカルバート水路の線路の上流側は、当初より土地が嵩上げされている。豪雨の時に土砂等で水路が塞がり、浸水となれば線路の路体へ影響する可能性がある。水路状況改善の町の考えは。

町長 毎年、水路の泥上げを行い、良好な状態を保っている。また、大雨が予想される場合は取水口を閉鎖して水量を管理し、十分注意している。

通学路の標識の点検体制は

亀田 本年6月9日、おいらせ町の町道で標識の支柱が腐食により倒壊し、児童のランドセルに接触するという事故があった。

寺町の通学路の途中に、腐食して上部が取れた標識と思われるものがある。通学路に当たる箇所は標識の安全性を町として、把握する必要があるが。

町長 通学路の点検は、直近では21年7月9日付で、文部科学省から緊急点検の依頼があり、通学路における合同点検等実施要領に基づいて、町内24カ所の通学路の点検を実施した。指摘された腐食した支柱は標識部分がなく、平内交番へ問い合わせしたが、交番管轄でないため町で撤去する。

亀田 劣化した標識などを見つけた時の連絡体制

町長/文部科学省の依頼で万全に

を構築する必要があるが。

町長 連絡体制は現在、住民等からの情報提供や担当課職員が管内を巡回し、危険な物件には随時、青森県警へ連絡をして対応をして貰っている。地域住民の安全安心を補完するため、速やかに情報をいただけるよう行政連絡員等へ情報提供の依頼や周知を行い、不備な交通安全設備の把握に努め、事故のないよう取り組みたい。

亀田 当該標識は、舗装面から15センチぐらいのところ腐食が進んでおり、なるべく早い撤去をお願いしたい。

町民課長 速やかに業者へ依頼し、撤去を進めたい。

委員会の活動

所管事務調査

経済文教常任委員会

7月21日（金） 13：30～



平内町過疎地域持続的発展計画（21-25年度）の中間年の経過状況確認を兼ねて、生涯学習に関する事業状況について調査を行いました。

1.生涯学習に関する事業状況

生涯学習課の組織及び事務分掌についての説明のあと、現在行っている事業10項目について説明がありました。事業のうち、家庭教育支援講座はコロナ禍により未実施となったこと、ひらなカレッジはコロナ禍により1講座が中止されたものの他の講座は全て開催できたとのことでした。また職業体験事業（ひらなジョブタウン）に関しては好評であることから今年度は人数制限を廃して全員参加を目指しているとのことでした。地域学校協働活動は地域学校協働活動推進員を地区ごとの担当から全域を全員で担当するよう変更し、活動の活性化につながったとのことでした。

2.平内町過疎地域持続的発展計画事業状況の中間調査

平内町過疎地域持続的発展計画の中の生涯学習のまちづくりに関し、事業状況の中間調査を行いました。

生涯学習のまちづくり強化のために行う推進会議が21及び22年度開催されなかったことが報告され、今年度は開催に努めたいとのことでした。また、ひらなカレッジの講座に関し、担当者が研修中であり、10講座が未定であるとのこと、担当者が研修終了次第、講座を取り決めるとのことでした。

質疑 フラワーロード事業の展開方に関して多くの質疑応答が行われました。その中で住民の皆さんがどのように主体的に関わりたいと思い、関わってくれるようになるか、広報・周知をもう一段深める必要性を感じました。

放課後こども教室について、西地区及び中地区は長期休業中に実施されている教室があるものの、東地区での実施がなく、今後実施をどうするかが課題である旨が話し合われました。その他B&Gプール開放日の周知について平内町のLINEアカウントで広報するなどしてはどうかとの意見が出されました。

議会広報研修会

読まれない議会だよりに出す意味なし！

広報編集特別委員会

8月31日（木）、県町村議会議長会主催の「議会広報研修会」が、青森県労働福祉会館で県内30町村広報委員の参加で開催されました。

講師からは「住民に読まれ、伝わり議会の見える化へ」と評しての講演でした。「読まれない議会だよりに出す意味なし！」と全国コンクールで常時入賞を果たしている先進広報委員会の基本方針が紹介され、町民視線での心掛けが基本であることを重ねて強調されました。

続いて、講師による県内5町村の「議会だより」記事の改善点やレイアウトの工夫等のアドバイスがありました。

年々、各町村とも記事、構成、編集に進展が見られる「議会だより」でした。



県内5町村の議会だより



県内30町村の広報委員のみなさん

県外視察

総務福祉常任委員会

高齢化率増 社会福祉事業への取り組み

7月25日、高齢化率47%（当町42.79%）の北海道赤平市の福祉行政の取り組みを研修しました。

※高齢化率：人口に占める65歳以上の割合

赤平市の概要

赤平市は北海道のほぼ中央部に位置し、「石炭のまち」として1960（昭和35）年には人口がピークの59,430人を数えました。しかし、その後、石炭産業の衰退を余儀なくされ、1994（平成6）年には、最後の一山が閉山し、「石炭の歴史」に幕を下ろしました。この間、工業都市へと産業構造の転換を図り、「水と緑豊かなふれあい産業都市」をめざしています。

面積：129.88km²

人口：8,859人（5,415世帯） 高齢化率 47%
（2023年7月1日現在）

当委員会では、当町の高齢化率が40%台への突入や単身世帯も増え、ますます福祉行政の果たす役割の重要性から、当町よりも高齢化率が高い自治体を選定し視察研修に臨みました。

高齢者世帯等除雪費助成事業

高齢者世帯、障がい者世帯、要介護世帯、ひとり親世帯で自力での除雪が困難であり、支援してくれる親族もない世帯について、除雪にかかる費用の一部を助成します。

除雪範囲

- 1 玄関から道路までの生活に必要な箇所
- 2 公道除雪後の置き雪の除雪
- 3 屋根の除雪

助成額 業者や個人に除雪を依頼し、支払った額の1/2。上限額2万円

（当町では今年1月から屋根の雪下ろし費に1/2、上限額3万円助成しています。）

申請方 業者や個人への除雪の依頼は申請個人。

電話サービス事業

概ね65歳以上のひとり暮らしの高齢者に対し、電話で「お話をする」サービスです。安否確認を兼ね気分転換やリフレッシュを目的とし、また、必要に応じて日常の専門の機関に取り次ぐこともおこなっています。



高齢者補聴器購入費用助成事業

助成上限額：5万円

- 1 購入した補聴器の全額（片耳）
- 2 助成の交付を受けてから5年を経過するまで、再度の申請はできません。

救急医療情報キット配布事業

在宅の高齢者が急病で倒れてしまった場合などに、かかりつけ病院、服薬、救急時の連絡先の情報をあらかじめ、救急隊員に知らせることにより、迅速な救急活動に役立てます。

エリアサポーター 孤立する人がいない地域を目指して活動する方。

生活支援サービス依頼内容

- ・ゴミ出し・蛍光灯の交換・ベランダの窓拭き
- ・階段の拭き掃除・煙突周囲のホコリ取り
- ・網戸の取り付け・タンスの整理・買い物代行
- ・施設内の誘導介助・院内介助

サービスを受ける人は事前にチケットを購入し、必要数をエリアサポーターへ渡します。

料金は10分100円、30分300円、60分600円

困っている住民を1人でも少なくしたいとの姿勢で現状を踏まえ、福祉行政にあたっています。住民アンケートでも詳細に分析し、一人ひとりに寄り添う高齢者福祉支援充実に努めています。視察を受け、福祉行政の原点である「寄り添う施策」へと、改めて感じさせられました。

研 修 報 告

経済文教常任委員会

北海道森町 ホタテガイ養殖の現状と課題

7月31日(月)～8月2日(水)

＜森町の概要＞ 森町は北海道茅部郡にあり、南は北斗市と七飯町、東は鹿部町、南西は厚沢部町、西は八雲町に接し、内浦湾（噴火湾）を擁するホタテ養殖産業の盛んな町です。

面積368.79km²、人口13,978人 高齢化率39.86%
(2023年7月末現在)

＜研修を終えて＞

森町のホタテ養殖産業を巡る課題で参考になるのは、ホタテの稚貝を自分たちのところで生産しているが、リスク管理として4カ箇所から継続して購入しています。ラーバ確保が困難な時だけ対応を採るのではなく、リスクを管理する観点から、継続的に県内漁協間で確保したラーバをやり取りし合う状態を作り上げることが必要と感じました。

水産加工品のブランド化では、「帆皇」に見られるように、価格と手間暇がバランスしないと生産者は費用対効果の良いものを選好するため、ものが無い状態となります。また「ほたて昆布きんちゃく」のように大量生産へ向けてボトルネックがあれば、



大きく売り込みできないことになるため、人気が出た段階で大量生産可能な体制へ移行できるようにすることが必要と感じました。

漁業系一般廃棄物処理ではホタテの貝殻込みで処理し、たい肥化して販売していましたが、そのような処理だと貝殻の破片がジャガイモなど土中で採れる農産物に傷をいれて価値を無くしてしまうことが問題となり、農家へ売れなくなったとのことでした。考えた処理方法を目指すべきであると感じました。

北海道余市町の観光づくり

＜余市町の概要＞ 余市町は小樽市の西隣にあり、観光地ニセコ町から車で70分の距離に位置し、北海道一の生産量を誇るワイン醸造用のブドウ生産で知られます。

面積140.59km²、人口17,395人 高齢化率40.5%
(2023年7月末現在)



＜研修を終えて＞

余市町の観光地域づくりは現在、非常に上手く進んでいるように見受けられます。その素地は大きく二つあり、一つはワイン用ぶどうの産地であった余市町を原料供給地ではなくワイン製造地へ押し上げ

るために、2011年から「北のフルーツ王国よいちワイン特区（余市町）」として町が便宜を図り続けたことです。もう一つは観光地域づくり協議会の柱となっている（一社）余市観光協会の意欲的な観光地域づくりへの取り組み姿勢です。同協会はもともと商工会に間借りした組織であったが、9年前に商工会から独立し、町からの予算を獲得しながら観光地域づくりに取り組んできました。コロナ禍で余市振興公社が運営から撤退する際に道の駅と駅前のエルプラザの運営を引き継ぎ、奮闘してきています。

余市町の観光コンテンツの特徴は自分たちが捌ききれぬ「数」で回すことです。余市スタイルまつり、余市町の海と丘を訪ねるおいしい1日、ラフェスト2023は数を限定し、価値を高い状態に維持して次の期待を維持するようにしています。JR余市駅前ワインエリアも、札幌圏からの観光客の「穴場的な立場」なのだろう。札幌圏のそばにある観光地としての余市町の立ち位置は非常に参考になるものでした。

東郡町村議会議員健康管理セミナー

7月20日、4年ぶりに4町村持ち回りで行われる東郡町村議長会主催の「東郡健康セミナー」が、「蓬田村ふるさと総合センター」で開催されました。蓬田村保健師さんによる健康チェック、ラジオ体操後に、「モルック」競技に入りました。



中泊町議会 議会活性化特別委員会のみなさんを迎えて

8月16日、中泊町議会の議会活性化特別委員会が、当議会の「議会基本条例策定に関する検討内容等について」視察研修に訪れました。

当日は当議会の議長、副議長、議会活性化特別委員会正・副委員長から、条例制定のきっかけや重点をおいて検討した条項、施行後大きく変わった点、制定後の課題などについて説明。

質疑応答では、

- ◎条例制定の必要性等について説明を受けた当時の青森中央学院大学佐藤淳准教授（現青森大学社会学部教授）のアドバイスは大きなポイントとなったか。
- ◎議会報告会で町民から議会活動に対する質問を受け付けるとは画期的なアイディアだと思うがどのように進化したか。
- ◎条例の目的が達成されているかを毎年検証しているかなど、活発な意見交換ができました。



中泊町議会活性化特別委員会委員長の挨拶

中泊町の特別委員会委員からは、「今後、議会基本条例を策定する場合、今回の研修内容を参考に策定したい」などの感想をいただきました。

議会運営や活性化について意見を交わすことができ、当議会にとっても大変貴重な機会となりました。目指すは町民に親しまれる議会です。今後とも研究を重ねていきたいと思います。

議会に対するアンケート 結果を受けて協議

定例会最終日閉会後に、平内町議会活性化特別委員会が行った各種団体への「平内町議会に対するアンケート」の集計を受けて協議をし、後日、議員間による自由討議を行うことを決めました。

アンケート要請は8団体132人で75件の回答件数でたくさんの意見が寄せられました。

平内町スポーツ推進委員	6人
文化財審議委員	6人
社会教育委員	6人
勤労青少年ホーム運営委員	5人
連合PTA役員	7人
連合婦人会	14人
行政連絡員	58人
公民館分館長	32人

重複2人

アンケート項目

- 1 町議会に関心がありますか？
- 2 平内町議会議員の活動に満足していますか？
- 3 今の議会を評価しますか？
- 4 町民の意見や声が町議会に反映されていると思いますか？
- 5 平内町議会議員に何を期待しますか？

次回、議員間による自由討議へ

平内町議会基本条例

第2章 議会・議員の活動原則

第3条第2項 議員は、議会が合議制の機関であることを認識し、多様な町民意思を反映した議員相互間の自由討議を推進しなければならない。

追跡 No.15 あの質問はどうなった？

買い物難民対策を

2012（平成24）年 第4回定例会

質問 買い物困難な町民をつくらない対策を

答弁 町民バス、患者送迎バスのあり方に加え、スクールバスの混乗や地元タクシー会社と協力してオンデマンド型タクシーを運行させるなど検討していきたい。

デマンド交通の試験運行を

2021（令和3）年 第2回定例会

質問 予約型デマンド交通の試験運行を早期に実施を

答弁 公共交通計画では実証運行の計画がある。より利便性の高いものとなるよう検討・調製を進めていく。

現在は

予算を計上

今定例会にデマンド型交通（事前予約制の乗り合いタクシー）運行委託料として、12月から3月までの4カ月分の予算430万円が計上されました。

今後の事業費予定

令和5年度 430万円

令和6年度 1100万円

令和7年度 1100万円

令和8年度 1100万円

町ではモデル地区の赤坂台・沼館・狩場沢3地区で、昨年、今年と2回の説明会を行いました。

議会日誌から

8 月

- 3日 平内町老連旗祭り
- 4日 子ども議会
- 10日 平内町交通安全対策協議会
- 15日 平内町はたちの成人式
- 16日 中泊町議会活性化特別委員会による視察研修
- 19日 ひらない夏まつり
- 22日 東津軽郡町村議会議長会 役員・事務局長会議
- 25日 一般質問通告締切日
- 31日 県町村議会議長会 町村議会広報研修会

9 月

- 2日 平内町連合PTA研究大会
- 3日 第31回青森県民駅伝競走大会結団式及び慰労会
- 5日 議会運営委員会
- 8日 第3回定例会開会
- 11日 本会議・一般質問
- 12日 決算特別委員会
- 13日 決算特別委員会
- 14日 各常任委員会
- 15日 本会議・閉会
議会広報編集特別委員会
- 28日 県町村議会議長会 理事会

10 月

- 4日 議会広報編集特別委員会

議会の傍聴

日程は変更されることもありますので、議会事務局（755）2119へお問い合わせ下さい

23年 第4回定例会の予定

あなたに 町の未来が 見えてきます	12/4（月）	開会・本会議 議案上程
	12/5（火）	休会
	12/6（水）	本会議 一般質問
	12/7（木）	各常任委員会
	12/8（金）	本会議 採決・閉会

5～6日 東津軽郡町村議会議長会 議長・副議長研修視察

- 5日 第32回平内町社会福祉大会
- 11日 議会広報編集特別委員会
- 12日 秋の安全・安心まちづくり推進大会
- 14～15日 平内中学校文化祭
- 16日 議会広報編集特別委員会
- 21日 小湊小学校創立150周年記念学習発表会
東小学校、山口小学校学習発表会
- 26日 県議会議長・正副議長・事務局長等研修会
- 27日 第60回平内町老人福祉大会
- 28～29日 第9回ひらない秋まつり

おらほの
サークル紹介シリーズ

平内町グラウンドゴルフ協会

代表者氏名：向 井 麗 子（むかい れいこ）



秋深まる夜越山 腕磨きます

1. 設立はいつですか？

平成元年に設立されました。

2. 現在の活動状況はどうですか？

平日の月水金曜日に、時間の都合がついた15人程で活動しています。時間は9時30分から準備して、10時～12時までの活動です。5～11月までは屋外で、冬季は体育館で活動しています。8ホール4回まわり、スコアを付け、それぞれ腕を磨いています。通常の活動以外に月例コンペがあり、みんな仲良く楽しくプレイしています。

3. 今後の抱負を教えてください。

県内での主な大会は終了しましたが、11月1日の13時30分から、みちのく銀行主催のグラウンドゴルフ大会がここ夜越山で行われるので、それに向けて腕を磨いています。

4. 議会や議員への一言をお願いします。

他の地域との交流があり、平内町での大会をしたいと言ってくれるので、他市町村を招いての競技ができる芝生の整備されたエリアが欲しいと思っています。

12月に町立体育館が使えなくなるとのこと、今冬の屋内での活動ができるよう旧小湊中学校の体育館を開放して貰いたいです。どうかよろしくお願いします。

5. 最後に一言。

グラウンドゴルフは難しいスポーツではなく、誰でも気軽に初めての方でも楽しめます。用具は貸し出しますので、皆さんの参加をお待ちしています。ぜひ遊びに来てください。よろしくお願いします。

編集後記

今号は8月4日に開催された2年ごとの「子ども議会」の一般質問を掲載しています。3小学校、中学校代表の議員にとっても一生に一度？の機会であり、個々に感じていることやクラスの総意としての質問ですので、4年前の前々回から詳細に掲載することにしています。また、質問、答弁の口調も「です」「ます」で閉じています。なお、町議と執行部の

場合は新聞のように「～である」の掲載を推奨されていますので、当広報編集特別委員会では従来の形式をとっています。

なお、議会広報の充実として、最高規範と位置づけている「平内町議会基本条例」は、「町民に対して周知し、議会や町政に関心を持つよう議会広報に努める」と謳っています。委員一同、精進していきます。

田 中 光 弘

議会広報編集特別委員会

委 員 長	太田 満則
副委員長	田中 光弘
委 員	小笠原智鶴子
委 員	亀田 弘徳
委 員	田中 茂勝
委 員	佐々木徳正



発行／青森県平内町議会
編集／議会広報編集特別委員会

〒039-3393 青森県東津軽郡平内町大字小湊字小湊63
TEL：017-755-2119
ホームページ：http://www.town.hiranai.aomori.jp/